

2025 年 5 月 26 日

宮越ホールディングス株式会社

WIC プロジェクト、東京で中枢 4 社の「日中合同開発推進会議」開催

～「日本式 100 年建築」中国・深圳で実現へ

当社の子会社である深圳皇冠（中国）電子有限公司（以下「皇冠電子」という。）が中国深圳市で推進している「ワールド・イノベーション・センター」（以下「WIC」という。）プロジェクトについて、当社と皇冠電子、設計を担当する日建設計と中国大手設計院である深圳市華陽国際工程設計株式有限公司の 4 社は 2025 年 5 月 7 日（水）～9 日（金）の 3 日間にわたり東京都大田区大森にある当社本社ビルに一堂に会し、日中合同開発全体推進会議を開催しました。4 社は日中間で緊密に連携しており、今回の東京での会議を通じ、設計・建築・運営管理の各プロセスでカギをにぎる高度な技術と知見を共有するとともに、今後のアクションプランについて具体的に協議が進展しました。日中両国が誇る最新技術の粋を結集した安心・安全な「100 年建築」モデルを WIC に導入する歴史的な次世代開発プロジェクトは今後、同会議を総司令本部としていよいよ実施フェーズに向けた作業が加速します。

華陽国際からは袁源（エン・ゲン）執行総裁をトップとする 7 名の特別視察団が初めて来日。日建設計からも中谷憲一郎常務執行役員（企画開発部門統括）をリーダーとする 6 名の専門家チームが出席し、設計のあり方や全体の開発体制の方向性についてすり合わせました。本会議では会場中央に日建設計が作成したプロジェクトの中核となる地上 250 メートルのオフィスタワー 2 棟、150 メートルの住宅棟の模型（縮尺 300 分の 1）も展示。日本国内では 250 メートル以上の高層ビルはわずか 7 棟にとどまります（2025 年 3 月末時点 竣工済）。本プロジェクトのスケールと先進性を際立たせるとともに、開発本格化へ向けた緊張感と熱気の中で関係者の一体感が格段に高まりました。

日本の先端都市開発を視察

会議期間中には、華陽国際も含め都内で最新の建築・運営技術を活用した高層ビルなどの合同現地視察も実施しました。参加者は設計・建築・運営管理まで、最高水準の包

括的な日本式ノウハウを体験。今後のプロジェクト展開に向けた真剣な意見交換が行われるなど、日中の知見と信頼の絆を再確認しつつ新しい時代の中核都市づくりの礎を築く極めてユニークかつ有意義なキックオフ合宿となりました。既にプレスリリースでお伝えしたように、当社グループは皇冠電子の実施主体と規劃容積（348、700 m²）が正式に深圳市当局から認められました。これから宮越 HD を中心とする 4 社の協働体制をより一層強化し、日中連携による画期的な WIC プロジェクトの実現に総力を挙げて推し進めて参ります。







